

血を出せ。

四 瘡^の殺^す一^身方^に熱^{せん}と^すは、^足上^の動^脈と^刺し^て血^{を出}せ。

其^の空^を開^き、其^の血^{を出}せ^ば、^血は^止む^に其^の功^也。

瘡^の方^に寒^しと^欲す^ば、^手の^陽明[、]太^陰、^足の^陽明[。]

太^陰と^刺せ。

瘡^の脈^滿大[、]急^{なる}は、^背俞^と刺^せ。^中鐵^と用^い、^傍に

九鐵中の筆鐵

五^指の^俞と^各々^一、^肥瘦^に適^りて^其の^血を出^せ。

瘡^の脈^小、^實急^{なる}は、^脛の^少陰^に灸^し、^指の^井と^刺せ。

三十一、三十二、三十三、三十四、三十五

瘡^の脈^滿大[、]急^{なる}は、^背俞^と刺^せ。五^指の^俞、^肢俞^と

各^々一[、]行^に適^りて^血に^至す^也。

瘡^の脈^緩大[、]虚^{なる}は、^便五^指と^藥を^用中^へし。^針と

用^中は^宜し^の也。

IV 凡^そ瘡^と治^すは、^灸の^灸頭^の如^くと^殺せ^ば、^刀を^以て^治す

可^し。之^を過^ふは、^則ち^時と^夫也。^諸の^瘡に^しの^脈、^見け^ば

十^指の^間と^刺し^て血^{を出}せ。血^去し^ば、^必ず^中へ^に、^灸の^灸頭^の

赤^とと^え、^小豆^の如^きを^視し^ば、^患の^之を^取れ。

三十六、三十八

十二瘡は、その發するところ、時を同じくせず。其の病形を察し、以て其の何脈の病なるかを知り也。

皮の其の發する時は、食頃のおくはくは之を刺せ。一刺すれば、則ち老之。二刺すれば、則ち死れ。三刺すれば、則ち已也。已ざるは、舌下兩脈を刺し、血を出せ。已之ざるは、却中の盛經を刺し、血を出せ。又、項已下と脊を灸せ、刺せば、已也。舌下兩脈とは、廉泉なり。

四

二十六、七

之を刺せ。先づ頭痛が、重きに及ぶ者は、皮に頭上を刺し、兩額兩眉間に及ぶ血を出せ。

皮の項背痲刺者は、皮に之を刺せ。

皮の腰脊痲刺者は、皮に却中を刺し、血を出せ。

皮の手臂痲刺者は、皮に手の少陰、陽明、十指の間を刺せ。

先づ足の脛、痲痛する者は、皮に足陽明、十指の間を刺し、

血を出せ。

太陽

四

風瘡は、瘡發するときは汗出て、風を惡む。三陽經の背俞の

二十六、八

血ある者を刺せ。

名あり

筋の痠痛甚しく之を按ずると可なりは肝髓病と曰ふ。

鏡鐵を以て繩骨に鐵し血を出せよと云ふに己ぬ。

身體の痛するは至陰を刺せ。諸陰の井は血を出す也。

開日にて一刺せよ。

瘧にて渴せり開日にて作るは足の太陽を刺せ。

渴し開日にて作るは足の少陽を刺せ。

過瘧の汗出たるときは五十九刺を爲せ。

三十六、九